

今アツい!

感染界限

MyTopic

連載



「感染」にまつわる国内外のニュースや、ホットな話題をお届けする連載です。毎号、感染に精通した先生に今アツい最新トピックを語っていただきます!

今月のナビゲーターは

酒井義朗 先生

久留米大学病院

薬剤部 副部长補佐



Topic

サル痘の最新情報

サル痘は、1970年にザイール共和国（現在のコンゴ民主共和国）でヒトでの初めての感染が確認された、オルソポックスウイルス属のサル痘ウイルスによる感染症であり、感染症法では4類感染症に指定されています。サル痘ウイルスは二本鎖DNAをもつ巨大なエンベロープウイルスです¹⁾。2022年5月以降、世界各国でサル痘患者が報告されています。今回は2023年4月現在の情報についてまとめ、ICTメンバーが共有すべき内容について紹介します。

●サル痘の特徴

サル痘はアフリカに生息するリスなどのげっ歯類をはじめ、サルやウサギなどウイルスを保有する動物との接触によりヒトに感染します¹⁾。ヒトからヒトへの感染はまれですが、濃厚接触者の感染やリネン類を介した医療従事者の感染の報告があり、患者の飛沫・体液・皮膚病変（発疹部位）を介した飛沫感染や接触感染があると考えられています²⁾。空気感染を起こした事例は確認されていません。潜伏期間は6～13日とされており、臨床症状は発熱、頭痛、リンパ節腫脹などの症状が0～5日程度持続し、発熱1～3日後に発疹が出現します。現在報告されている患者の大部分は男性ですが、小児や女性の感染も報告されています¹⁾。診断はPCR検査やウイルス分離・同定、ウイルス粒子の証明、蛍光抗体法などが知られています。致死率は0～11%であり、特に小児において高い傾向にありますが、先進国で死亡例は報告されていません²⁾。治療法は対症療法で、国内で薬事承認された治療薬はありません。特異的治療薬として海外でテコビリマット（Tecovirimat）が承認されており、日本においても同薬を用いた特定臨床研究が実施されています³⁾。

ワクチンについては、2022年8月に天然痘のワクチンである痘そうワクチンに効能効果が追加され、サル痘の予防に対しても使用可能となっています⁴⁾。サル痘ウイルス曝露後、4日以内に痘そうワクチンを接種すると感染予防効果が認められ、曝露後4～14日で接種した場合は重症化予防効果があるとされています²⁾。サル痘ウイルスは環境中に42日間生存するとされ、消毒についてはア

本連載はインフェWEBサイトにて先行公開しております。

WEB
連動ルコールに有効性が示されています⁵⁾。

●日本国内の発生状況

日本における発生状況を厚生労働省の発表をもとにまとめました(表1)⁶⁾。初めての報告は2022年7月25日で、2023年4月25日現在、120例の報告があり、2023年以降、特に2月以降に報告数が増加しています。性別はすべて男性で、20～40代がほとんどです。症状は今まで報告されている通り、発疹や発熱が多く、こちらは海外と同様ですが、海外渡航歴のない例がほとんどです。日本では関東を中心に感染者の発生を認めますが、関東以外の地域でも感染者が報告されています。

本稿では、2023年4月現在のサル痘の情報をまとめました。サル痘は日本でも増加傾向であり、感染経路や症状、臨床経過、診断、治療については分かっています。サル痘についても知識を深めて、感染対策を講じることができるよう、ICTメンバーとして最新の情報を収集することが重要です。

表1 日本で報告されているサル痘患者の状況(2023年4月25日現在)

- ・報告数…120例
- ・発生年…2022年：8例、2023年：112例
- ・性別…男性：120例、女性：0例
- ・年代…10代：1例、20代：23例、30代：41例、40代：48例、50代：5例、60代：1例、70代：1例
- ・症状(重複含む)…発疹：112例、発熱：86例、リンパ節腫脹：40例、身体の痛み*1：36例、倦怠感：24例、頭痛：13例、その他*2：5例、無症状：5例
- ・海外渡航歴…あり：5例、なし：115例

*1身体の痛みには背部痛、咽頭痛、肛門直腸痛、筋肉痛、歯肉部痛を含む。

*2その他には下痢、寒気、咳嗽、浮腫を含む。

(文献6より作成)

知って得する
One More 知識

WHOは、2022年11月にサル痘の名称としてmonkeypoxからMpxvの使用を推奨することを公表し、今後1年をかけて名称を移行していくと発表しています。日本においても2023年5月26日に「サル痘」から「エムボックス」に感染症法上の名称が変更されました¹⁾。

ICT
必見! 先生からのHOTなおコトバ

- ・世界中でサル痘の発生を認めており、2023年以降は日本でも発生が増えています。
- ・主な症状は発疹であり、日本でも同様です。
- ・日本では20～40代の発生が多く、海外渡航歴がない例がほとんどです。
- ・感染経路は飛沫感染や接触感染であると考えられています。
- ・環境中には長期間生存するとされています。
- ・消毒薬はアルコールが有効です。



引用・参考文献

- 1) 厚生労働省. エムボックスについて. https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/monkeypox_00001.html
- 2) 国立感染症研究所. サル痘とは. <https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/408-monkeypox-intro.html>
- 3) 厚生労働省. 事務連絡 サル痘に関する情報提供及び協力依頼について. <https://www.mhlw.go.jp/content/001056124.pdf>
- 4) 厚生労働省. 乾燥細胞培養痘そうワクチンの効能追加承認について. https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_27201.html
- 5) Kampf, G. Efficacy of biocidal agents and disinfectants against the monkeypox virus and other orthopoxviruses. *J Hosp Infect.* 127, 2022, 101-10.
- 6) 厚生労働省. エムボックス報道発表資料. https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/mpox_press-release.html